

早急に保育所を建設するべきだ ジャンボタニシの緊急対策を!

佐久間 久良 議員



問 保育所について塩崎厚労大臣は、国基準への引き下げを求めている。市は、国基準に上乘せをしているが、政府の緩和策は、子どもの安全のためにも許されない。

答 市の基準は、県条例と同様に、乳児室の面積基準が国基準を上回ることから、県の動向を注視したいと考えています。

問 県を注視するということは、変える方向もあるのか。

答 県の動向を見ながら、いろいろなニーズも見ながら考えていかなければと考えております。

問 保育所に入れないで困っている父母がいる。一刻も早く解決しなければならぬ問題ではないか。

答 待機児童の解消は、みどりや丘保育園の定員が70人増加とともに、ありんこの森保育園が定員12人で開設されたことで、一定の効果がありました。また、増穂保育所隣接地に平成30年度からゼロ歳〜2歳児、19人程度の児童福祉施設の整備を進めております。この他にも認可外保育所2施設が平成29年4月をめどに認可保育所への移行が予定されており、60人程度の定員増が見込まれております。

問 新たに公立の保育所を建設しないのか。今求められているのは、大網地域につくることではないか。

答 市では、この児童福祉施設の中に主たる待機児童であるゼロ歳から2歳児を19人程度保育する公立の地域型保育施設を計画しており、現在用地取得に向けた作業を進めています。大網地区は、既存の私立保育所の定員増や認可外保育所の認可化が進んでいます。当面今後の保育需要や民間保育事業者の動向を注視していきます。

問 今なぜ公立の認可保育所が求められているか。厚労省の保育施設における事故報告集計では、認可外保

障がい者や高齢者に対して優しい まちづくりは、とても大切な事だ!

石渡 登志男 議員



「ビーチラグビー大会」、その市の準備において白里海岸の砂浜を重機ですたずたにしてしまった。市民からも「大網に住んでいる者として海岸の情景はあまりに無残でとても悲しく思います。」と私にメールが入った。SNSにより全国に発信され、その衝撃たるものは凄く。「市は何をやっているんだ。こんなに海岸をぐちゃぐちゃにしてしまったのか。」とか、「住宅購入を検討していたがやめた。市長へ手紙を出した。」もっと慎重に考え行すべきだ!

問 市は誰に対しても本場に優しいまちづくりを目指しているのか? 駅前広場に4月より設置された障がい者の専用駐車スペース、あまりにお粗末。あの脇にはコンクリートの柱が4本、それらが鎖でつながれている。何とぶざけた事をやっているんだ。世の中には2つの人間しかないと思う。今、障がいを持っている方とこれから障がいを持つ方。誰でも歳を取れば、耳も遠くなり、目も見づらくなり、車椅子で移動になるかもしれない。やがて誰でも障がいを持つという事になる。障がい者に優しいまちづくりは誰にでも優しいまちにつながるはず。本市が障がい者や高齢者に優しくない自治体であってはならない。だから、こういった問題は市がもっとしっかりと対処すべき。駅前広場に設置された障がい者駐車スペース、まさに「形だけ綺麗、心を入れず!」だ。国も4月より法定義務とした。改善すべきだ。

答 抜本的な改良について安全性や利便性を考え検討しますが、広場全体の再整備を進めるうえで完了まで時間がかかるため、まずはどのような改良が出来るか検討します。

問 私は担当課長や幹部との話し合いにおいて、災害時、市の食料や飲料水はかなり早い時期に底を尽く恐れがあると言わせていただいた。

熊本地震では、町長はついに「町民は水分補給も出来ず飢えと戦っている。」と訴え、助けを求めた。市の食料や飲料水の備蓄を増やすべきだ。規定量に達しているのか。

答 現在、備蓄目標に達していません。今後、食料や飲料水等について様々な事態に的確に対応できるように備蓄や調達に努めてまいります。

問 とろろで津波避難タワー、市長や安全対策課を大いに評価する。2つの巨大な活断層が房総沖に見つかっているが、これが破断すれば、巨大化した津波が房総半島を襲う。津波到達時間10分以内、最悪10〜20mの高さがあったとしてもよい。小さなタワーでは飲み込まれる。私たちは想定外も考えていかなければならない。

問 人口増加策だが、12月議会でみどりや丘に特化すべきだとお伝えした。市はその時、みどりや丘は総合戦略における基本目標上で相応しい地域であると考えており、ご提案の利便性向上も合わせて検討を進めていくと言ったが、あれから半年経過した。その後の進捗状況は?

答 みどりや丘市有地の有効活用として、子育て支援機能や産科医療施設、商業施設等の誘致が望ましいと考えています。交付金を活用し、産科医院や子育て支援施設等の事業費を計上しています。今後、住民の方々の生活の利便性向上に努めます。

問 スピードが必要だ!このまま推移していけば、人口はどんどん減少する。平成22年で5万113人、平成27年で4万9191人、5年間で900人以上減っている。みどりや丘は子育てにもよい環境。ただ問題は不便だという事。この不便さを解消しない限り、本市人口増加の伸びは大きく揺らぐことになる。

働き、子育てする世代を呼び込み、 活力ある魅力あふれるまちづくりを

小倉 利昭 議員



問 現在の時点での大網駅東土地区画整理事業の進捗状況、完成予定はいつごろでしょうか。

答 本事業の進捗状況につきまして、平成28年5月末時点におきまして、道路等の公共施設整備や建築物等の移転補償を進める法的要件になります。仮換地指定が区域全体の約96パーセント行われているほか、建物の移転は計画戸数26戸に対し21戸が移転済み、または移転準備中で、進捗率は総事業費28億円に対し約19億円が執行済みであり、約68パーセントという状況です。また、事業全体の完了につきましては、道路築造や宅地造成等の基盤整備が完了した後も、出来高確認測量や仮換地を本換地として確定させる事務手続等が必要になり、現在計画されている平成30年度末の完了を目指して事業を進めております。

問 次に大網駅南地区市街地整備検討業務の概要について説明をお願いします。

答 大網駅南地区市街地整備検討業務につきましては、大網駅の南側、南玉、池田、駒込地区の約20ヘクタールを対象区域といたしまして、平成27年度に委託業務によって、大網駅周辺の交通渋滞の解消や生活利便性の向上を図る観点から、大網駅南地区の市街地整備のあり方を検討したところです。業務の概要といたしましては、分析のほか、主な内容として2点あります。一点は、現在決定されている都市計画道路3・3・2号、大網駅南線の線形、起終点をどのように変更すれば、周辺道路の渋滞緩和に効果があるかという点。また、もう一点は、渋滞緩和に効果のある都市計画道路に変更した形で、駅南地区整備手法別に道路整備先行型、スーパーストリート形成型、面的整備型の3ケースについて将来像をイメージしたものです。

問 平成28年1月より開始した市街地調整区域の「土地利用方針」及び「地区計画運用基準」とはどのようなものですか、概要を説明お願いいたします。

答 市街地調整区域につきましては、原則として市街化を抑制すべき区域であります。この市街地調整区域において、都市計画法に基づく地区計画を定めることで、市街地調整区域において開発許可ができるものです。土地利用方針については、市内の対象区域を3つの類型に区分しており、一例ですが、国道128号沿道区域であれば、沿道立地型の商業・業務機能の誘導を図るべき地区として方針を定めております。

問 現在128号バイパス、4車線化工事が各箇所で行われておりますが、今年度の工事概要について、説明をお願いいたします。

答 国道128号バイパスの4車線化工事につきましては、現在、二級河川小中川から南白亀川付近の区間において、千葉県で工事を実施しているところと見られます。平成28年度の工事内容につきましては確認しましたところ、経田交差点及び県道山田台大網白里線バイパス交差点において、左折レーン設置工事等を予定しております。上半期の工事発注をめぐりに進めていることと見られます。引き続き残る用地の取得に努め、事業の推進を図っていくと伺っております。

最後に、市民生活の利便性向上にぜひとも、128号バイパスへ、スーパー、ホームセンター、レストラン等の商業施設の進出を要望致します。子育てする若い世代を呼び込み、活力ある魅力あふれる大網白里市に住みたい・住みつつきたいまちづくりに邁進しようではありませんか。

